

＜ 創作を柱にした指導 ＞ 中学校第1学年(事例8)

1 題材名 リズムを楽しもう

2 題材について

本題材は、簡単な音符を基にリズムの創作を通して、音楽の基礎的な能力を高めていく事例である。読譜の能力が身に付くと、聴唱による歌唱活動よりも、より主体的な表現活動が展開できるとともに、より音楽活動の楽しさや喜びが味わえるのではないかと考える。生徒達の創造性や個性を伸ばすためにも基本的な読譜の能力を高め、主体的に表現できる喜びを味わわせたい。また、本題材は、毎時間ごと、短時間で継続的に繰り返し行う学習として指導計画に位置付けることとした。

3 題材の目標

- (1) 創作活動を通して、音符・休符・記号について理解を深める。
- (2) 簡単な音符・休符・記号を用いてリズム創作し、記譜力を身に付ける。
- (3) 創作したリズムを表現し、聴き合うことができる。

4 教材観

本題材は、授業開始からから10分程度の活動を継続して行うようにし、生徒の実態や理解状況に合わせて何度も繰り返し、短時間の積み重ねで力を身に付けさせようとするものである。また、記譜に関しては、具体的な音楽活動と必ず関連を図りながら展開することとした。

5 題材の評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点3 表現の技能
題材の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の構成要素を知覚し、正しくとらえることに意欲的である。 ・創作にあたっての音楽的知識を理解しようとする。 ・リズム創作活動に意欲的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の構成要素を知覚し、特徴を感じ取りながらながらリズム創作をしている。 ・拍の流れを感じ取り、リズム表現を工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作したリズムのフレーズを表現する技能を身に付けている。 ・拍子に合ったリズムを作る技能を身に付けている。 ・創作したリズムを記譜する技能を身に付けている。
学習活動具動体のお評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ①音楽の構成要素に関心を持ち、積極的にリズム創作をしている。 ②リズム模倣など限定されたリズムパターンによる創作活動に意欲的である。 	<ol style="list-style-type: none"> ①リズムの特徴を感じ取り、リズム模倣をしたり、限定されたリズムパターンを創作したりしている。 ②拍子を感じ取り、音楽の諸要素の働きを意識して表現の工夫をしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①リズム模倣や限定されたリズムパターンによる創作表現をする技能を身に付けている。 ②創作したリズムを楽譜に表すとともにリズムを表現する技能を身に付けている。

6 指導と評価の計画

ねらい・学習活動	学習活動における具体的評価規準	評価方法	学習活動活性化への視点(指導上の留意点)
第1次：簡単な音符や休符を理解する			
<ul style="list-style-type: none"> ○リズムの模倣 ○リズムカードのビンゴゲーム 	観点1-① 評価の場面Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ワークシート ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・手拍子など取り組みやすいところから始める。聞き慣れたリズムから行い、生徒が模倣しやすいようにする。 ・音符などの理解を深める。 ・楽しく理解できるよう配慮する。 ・一人一人の理解の状況を把握する。
第2次：リズムに慣れる。			
<ul style="list-style-type: none"> ○模倣するリズムに発音を付ける。 ○言葉にリズムを付けパターンになれる。 	観点1-② 評価の場面Ⅰ	リズムプリント 観察	<ul style="list-style-type: none"> ・声を出させることにより意識をもたせる。 ・身近な言葉にリズムを当てはめることによってリズムパターンに慣れさせる。
第3次：リズムを聴き取る。			
○リズムパターンを聴き分ける。	観点2-①	リズムパターンカード	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示したリズムをパターンカードから探し出させる。 ・簡単なものから段階的に課題を示す。

○2枚のカードの組み合わせのリズムを聴き取る。 ○リズムパターンを増やして行う。	観点2-① 観点3-① 評価の場面Ⅱ	観察	・慣れるまでは2枚目のカードだけを固定すると選びやすくなる。練習をして慣れてくれば2枚とも選ばせる。言葉を付けて行うとわかりやすくなる。 ・生徒の状況に合わせ、4枚程度まで挑戦させる。また、既習曲のフレーズのリズムを使うと、その後の歌唱や器楽活動に発展させることができる。
第4次：簡単な音符・休符を用いたリズム創作をする～1			
○4/4拍子、四分音符と四分休符のリズムパターンを1小節単位で創作する。	観点2-② 観点3-② 評価の場面Ⅲ	・プリント 観察	・考えついたリズムを記譜させる。 ・初めて記譜に入るので良く状況を観察する。 ・1小節のリズムを組み合わせ、表現してみる。
第5次：簡単な音符・休符を用いたリズム創作をする～2			
○八分音符と八分休符を入れたリズムを創作する。	観点3-① 評価の場面Ⅳ	観察	・長さの違いを確認し、正しく作られているか留意する。 ・前時で作ったリズムパターンと組み合わせ表現してみる。
第6次：短い詩にリズムを付ける。			
○短い詩を作る。 ○詩に合うようにリズム作成をする。	観点3-① 評価の場面Ⅴ	観察 ・プリント	・生徒が取り組みやすいよう教師側でテーマを設定するとよい。 例：季節、ものがたり、夢、行事など ・正確に記譜できているか確認する。 ・できたリズムを発表する。

7 観点別評価の進め方

(1) 評価の場面Ⅰ

○この場面の学習活動 ・ビンゴゲーム ・リズムの模倣
○学習活動における具体の評価規準 ・音楽の構成要素に関心をもち、積極的にリズム創作をしている(観点1-①) ・音符の諸要素を理解し、活動している。
○評価方法 観察 ・関心をもって意欲的に模倣をしているか。 ・音符の諸要素を理解できたか
○「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する具体例 ・リズムの特徴に関心をもち活動するとともに、正確に模倣ができ、リズム・テンポを体得できている。 ・音符の諸要素を理解し、表現できている。
○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて ・教師と一緒にリズムを打つとともに、ゆっくりしたテンポで繰り返し練習をさせる。

(2) 評価の場面Ⅱ

○この場面の学習活動 ・リズムパターンを聴取する。
○学習活動における具体の評価規準 ・リズムの特徴を感じ取り、リズム模倣をしたり、限定されたリズムパターンを創作したりしている。(観点2-①) ・リズム模倣や限定されたリズムパターンによる創作表現をする技能を身に付けている。(観点3-①)
○評価方法 観察…リズム活動の様子を観察する。
○「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する具体例 ・リズムを正しく聴取、理解するとともに、リズムの特徴を生かしてリズムパターンを創作している。 ・創作したリズムパターンを的確なテンポで演奏している。
○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて ・リズムパターンを一つずつ丁寧に理解させる。 ・リズム打ちに課題がある生徒には、教師と一緒にリズムを打って、リズムを感じ取らせる。

(3) 評価の場面Ⅲ

○この場面の学習活動 ・4/4拍子、四分音符・四分休符のリズムパターンを1小節の単位で創作する。
○学習活動における具体の評価規準 ・創作したリズムを楽譜に表す技能を身に付けている。(観点3-②)

○評価方法

生徒が創作したプリントを回収し、評価する。

○「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する具体例

・拍や拍子など正しく理解され、記譜がされている。

○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて

・理解できない部分を明確にしなが、音符や休符について理解を深める。
・拍節感を感じ取り、手拍子などで確認させる。

（4）評価の場面Ⅳ

○この場面の学習活動

・八分音符・八分休符を入れたリズムを創作する。

○学習活動における具体の評価規準

・音符や休符を正しく理解し、創作することができる。（観点3-①）
・前時までに学習した内容を生かし、創作することができる。

○評価方法

・生徒が創作したプリントを回収し、評価する。

○「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する具体例

・考えたリズムを正確に記譜することができる。
・リズムの変化の工夫が見られた創作ができる。

○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて

・音符や休符の理解を復習する。
・拍節感を感じ取り、教師と一緒に手拍子などで確認させる。

（5）評価の場面Ⅴ

○この場面の学習活動

・短い詩を作り、リズムを合うように創作する。
・楽譜に表し、発表する。

○学習活動における具体の評価規準

・拍子を感じ取り、音楽の諸要素の働きを意識して表現の工夫をしている。（観点2-②）
・創作したリズムを楽譜に表すとともにリズムを表現する技能を身に付けている。（観点3-②）

○評価方法

・観察（活動の様子を観察する。）
・生徒が創作したプリントを回収し、評価する。
・発表の場を設け、表現することができる。

○「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する具体例

・詩やリズムの流れが工夫され、創作されている。
・つくったリズムを自信をもって発表をしている。

○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて

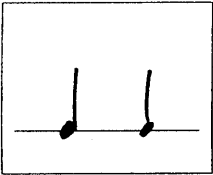
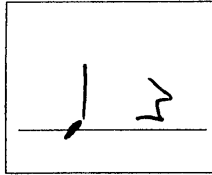
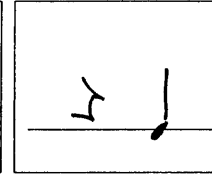
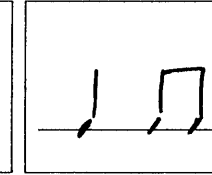
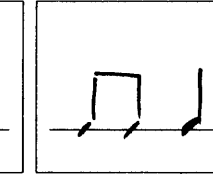
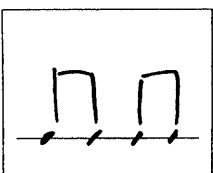
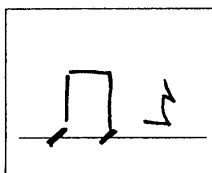
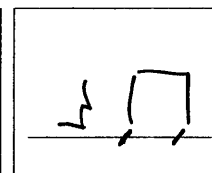
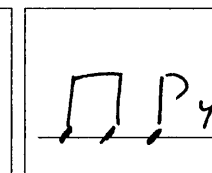
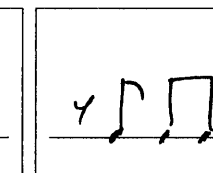
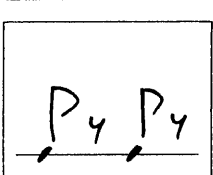
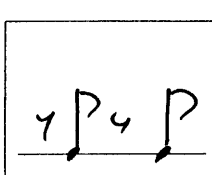
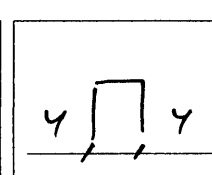
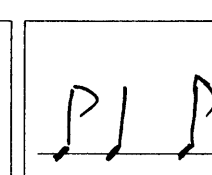
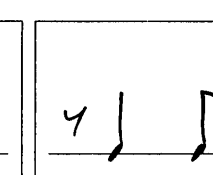
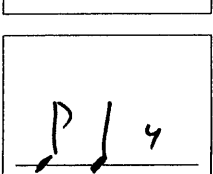
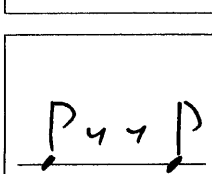
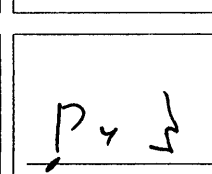
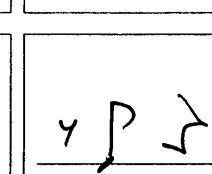
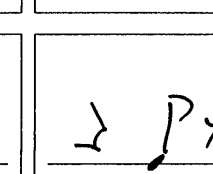
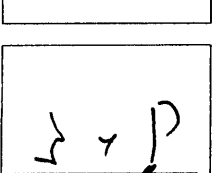
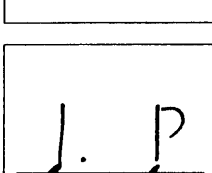
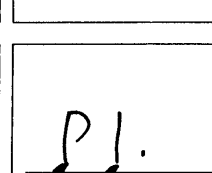
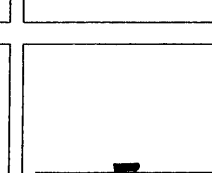
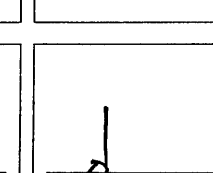
・特徴的なリズムパターン等のヒントを与えて、取り組ませる。
・つくったリズムパターンの演奏に関しては、拍節感を十分感じ取らせながら表現させる。

生徒の実態に応じて、活動の内容を応用していくことも可能である。

- ・音符の種類を増やす。
- ・いろんな音楽の1フレーズを自ら記譜し、表現してみる。
- ・生徒の良く話題になっている曲や、耳にする曲などリズムパターンだけを提示し、表現させてみる。

と、いうことも音楽を視覚的にとらえることができ、また、音楽表現に対する主体性も高まっていくのではと考える。生徒達の実態や達成度によって繰り返し活動することが効果的である。

♪リズムパターンカード♪

年 組 番氏名

ビンゴゲーム用シート

氏名
